平成18年5月10日運営委員会提出資料

参考資料１－２

若年層献血意識に関する調査結果の概要（案）

Ⅰ　調査の概況

１　調査の目的

近年、献血者数は減少傾向にあり、特に若年層の献血者の減少が著しい。

これに加え、平成１７年２月、国内で初めて変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（ｖＣＪＤ）患者が確認されたことから、輸血を通じたｖＣＪＤの伝播を防ぐための献血制限の強化等により、血液製剤の安定供給の確保に支障を来すおそれが生じている。

こうした中、少子高齢化に伴う献血可能人口の減少など、将来にわたって安定的に血液製剤を供給していくためには、若年層献血者の確保を図ることが重要であることから、若年層の献血に対する意識を把握し、献血推進方策等を検討する上での基礎資料を得ることを目的として本調査が実施された。

２　調査の対象者

１６歳から２９歳の献血経験者及び献血未経験者

※ 献血経験者　：過去に１度でも献血の経験がある者

※ 献血未経験者：今まで１度も献血の経験がない者（採血前の検査で基準を満たさないため献血できなかった者を含む。）

３　調査の時期

平成１８年１月２０日～２月３日
「はたちの献血」キャンペーン期間中

４　調査の方法

委託先調査会社が保有している一般消費者パネルに対して、インターネットを通じて調査票を送付し、地域区分ごとに一定数に達するまでの回答を収集する。

5　調査の内容

調査の内容は、大別すると次の事項に分けられる。

① 献血に関する認知度や献血へのイメージについて

② 献血を行った時期やきっかけについて

6　調査票の回収状況

区　　分	献血経験者	献血未経験者	合　　計
北海道	２００	２００	４００
東北	３５０	３５０	７００
関東甲信越	１，８００	１，８００	３，６００
東海北陸	７５０	７５０	１，５００
近畿	８５０	８５０	１，７００
中国・四国	４５０	４５０	９００
九州・沖縄	６００	６００	１，２００
合　計	５，０００	５，０００	１０，０００

Ⅱ　調査結果の概要

1　献血未経験者

■ 基本情報（回答者５０００人）

① 性別では、男性が 1,688 人（33.8%）、女性が 3,312 人（66.2%）であった。

② 年齢別では、２５～２９歳が 2,882 人（57.6%）、次いで２０～２４歳が 1,539 人（30.8%）、１８～１９歳が 304 人（6.1%）、１６～１７歳が 275 人（5.5%）であった。

③ 職業別では、会社員が 1,596 人（31.9%）、次いでその他が 999 人（20.0%）、大学生・専門学校生が 932 人（18.6%）、専業主婦が 856 人（17.1%）、高校生が 398 人（8.0%）、自営業が 115 人（2.3%）、公務員 104 人（2.1%）であった。

④ 医療関係従事者は 300 人（6.0%）であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

献血未経験者の４人に１人（26.2%）が献血を知らないと回答。
また、献血ルームのイメージについて、「明るい」が 18.2%で「暗い」の 20.6%とネガティブイメージが上回っていた。

Ｑ１　献血に関する認知度について、「ある程度知っている」が 3,268 人（65.4%）、「よく知っている」が 421 人（8.4%）で、献血を知っている者が全体の７割を超えていた。

Ｑ２　献血への関心について、「関心がある」が 2,291 人（45.8%）、「非常に関心がある」が 318 人（6.4%）で、献血に関心がある者が全体の５割を超えていた。

Ｑ３　献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が 3,485 人（69.7%）、次いで「献血バス」が 3,261 人（65.2%）、「テレビ」が 3,006 人（60.1%）であった。（複数回答）

Ｑ４　献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が 2,569 人（51.4%）、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が 1,921 人（38.4%）、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が 1,167 人（23.3%）であった。（複数回答）

Ｑ５ 献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が 4,445 人（88.9%）、次いで「インターネット」が 2,094 人（41.9%）、「新聞」が 1,409 人（28.2%）であった。（複数回答）

Ｑ６　「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が 1,465 人（29.3%）、「ポスターで見た」が 817 人（16.3%）で、全体の５割が認知していた。

Ｑ７　キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が 302 人（6.0%）、「仲間由紀恵」が 248 人（5.0%）、「木村拓哉」が 138 人（2.8%）であった。

Ｑ８　「けんけつちゃん」の認知度は、148 人（3.0%）。職業別では、高校生 20 人（5.0%）が、また、地域別では、東北 14 人（4.0%）の認知度が高かった。

Ｑ９　献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 1,297 人（25.9%）で、「知らない」が 3,703 人（74.1%）であった。

Ｑ１０　高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,646 人（92.9%）で、記憶ありは 354 人（7.1%）であった。

Ｑ１１　エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 1,460 人（29.2%）、「知らせていると思った」が 1,554 人（31.1%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 1,986 人（39.7%）であった。

Ｑ１２　献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,044 人（60.9%）、「知らない」が 1,956 人（39.1%）であった。

Ｑ１３　血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,132 人（22.6%）で、「知らない」が 3,868 人（77.4%）であった。

Ｑ１４　献血ルームのイメージについて、「暗い」が 1,030 人（20.6%）で、「明るい」908 人（18.2%）を上回っていた。

■ 献血をしたことがない理由等

献血未経験者が献血しない１番の理由としては、
- 針を刺すのが痛くて嫌だから（14.2%）
- 何となく不安だから（6.5%）
- 恐怖心（5.0%）
- 血を採られているという感じが嫌だ（4.6%）

といった「採血の際の痛みや不安」が全体の３割を占めていた。

Ｑ１５　献血をしたことがない理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「針を刺すのが痛くて嫌だから」の 711 人（14.2%）であった。

また、献血をしたことがない理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「針を刺すのが痛くて嫌だから」が 1,455 人（29.1%）、次いで「何となく不安だから」が 1,397 人（27.9%）、「健康上出来ないと思ったから」が 1,138 人（22.8%）であった。

Ｑ１６　献血するきっかけとなり得る理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合で 865 人（17.3%）であった。

また、献血するきっかけとなり得る理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「献血しているところが入りやすい雰囲気になった」場合が 1,670 人（33.4%）、次いで「針を刺すときに痛みを和らげる処置が実施された（麻酔など）」場合が 1,379 人（27.6%）、「献血が自分の健康管理の役に立つようになった」場合が 1.287 人（25.7%）であった。

２　献血経験者

■ 基本情報（回答者５０００人）

① 性別では、男性が 1,705 人（34.1%）、女性が 3,295 人（65.9%）であった。

② 年齢別では、２５～２９歳が 3,699 人（74.0%）、次いで２０～２４歳が 1,111 人（22.2%）、１８～１９歳が 145 人（2.9%）、１６～１７歳が 45 人（0.9%）であった。

③ 職業別では、会社員が 2,099 人（42.0%）、次いで専業主婦が 1,067 人（21.3%）、その他が 749 人（15.0%）、大学生・専門学校生が 652 人（13.0%）、公務員 203 人（4.1%）、自営業 143 人（2.9%）、高校生 87 人（1.7%）であった。

④ 医療関係従事者は 500 人（10.0%）であった。

■ 献血に関する認知度や献血へのイメージ

「街頭での呼びかけ」や「献血バス」に出会ったことがあるとした割合が多く、ともに7割を超えていた。
献血の呼びかけとして効果があると思った媒体は、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」57.8%と最も高く、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」49.1%であった。
献血ルームのイメージについて、「明るい」が 42.1%で「暗い」の 8.3%を大きく上回っていた。

Q１　献血に関する広報で接触したことがある媒体としては、「街頭での呼びかけ」が 3,910 人（78.2%）、次いで「献血バス」が 3,765 人（75.3%）、「テレビ」が 3,330 人（66.6%）であった。（複数回答）

Q２　献血の呼びかけとして効果があると思った媒体としては、「テレビ・新聞・ラジオを使った呼びかけ」が 2,888 人（57.8%）、次いで「街頭や職場、学校等での呼びかけ」が 2,457 人（49.1%）、「献血に関するイベントでの呼びかけ」が 1,619 人（32.4%）であった。（複数回答）

Q３　献血のキャンペーンを行う際の効果的な媒体としては、「テレビ」が 4,375 人（87.5%）、次いで「インターネット」が 2,195 人（43.9%）、「新聞」が 1,521 人（30.4%）であった。（複数回答）

Q４　「氷川きよし」キャンペーン起用について、「テレビで見た」が 1,763 人（35.3%）、「ポスターで見た」が 1,544 人（30.9%）で、全体の７割弱が認知していた。

Q５　キャンペーンキャラクターとして起用すべきタレントは、「上戸彩」が 285 人（5.7%）、「仲間由紀恵」が 221 人（4.4%）、「木村拓哉」が 155 人（3.1%）であった。

Q６　「けんけつちゃん」認知度は、350 人（7.0%）。地域別では、「東北」が 46 人（13.1%）で他の地域と比べ高く、職業別では、「高校生」が 17 人（19.5%）で他の職業に比べ高かった。

Ｑ７　献血キャンペーン（「愛の血液助け合い運動」、「はたちの献血キャンペーン」）の認知度は、「知っている」が 2,322 人（46.4%）で、「知らない」が 2,678 人（53.6%）であった。

Ｑ８　高校生向けの献血に関する普及啓発資材「HOP STEP JUMP」を配布された記憶について、「知らない」が 4,470 人（89.4%）で、記憶ありは 530 人 10.6%であった。

Ｑ９　エイズ検査結果の非通知について、「知っている」が 3,200 人（64.0%）、「知らせていると思った」が 1,039 人（20.8%）、「そもそも検査していることを知らなかった」が 761 人（15.2%）であった。

Ｑ１０　献血で感染症に感染しないことについて、「知っている」が 3,995 人（79.9%）、「知らない」が 1,005 人（20.1%）であった。

Ｑ１１　血液製剤を未だ海外血液に依存していることについて、「知っている」が 1,540 人（30.8%）で、「知らない」が 3,460 人（69.2%）であった。

Ｑ１２　献血ルームの雰囲気について、「ふつう」が 2,479 人（49.6%）、「明るい」が 2,106 人（42.1%）、「暗い」が 415 人（8.3%）であった。

献血ルームの広さについて、「ふつう」が 2,728 人（54.6%）、「狭い」が 1,225 人（24.5%）、「広い」が 1,047 人（20.9%）であった。

献血ルームの職員の対応について、「ふつう」が 2,875 人（57.5%）、「良い」が 1,890 人（37.8%）、「悪い」が 235 人（4.7%）であった。

献血ルームの処遇（記念品や軽い飲食物）について、「ふつう」が 2,576 人（51.5%）、「良い」が 1,836 人（36.7%）、「悪い」が 588 人（11.8%）であった。

■ 献血を行った時期やきっかけ

現在、献血する理由（大きい順の３つまでの計）は、「自分の血液が役に立ってほしいから」が 3,367 人（67.3%）、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が 2,382 人（47.6%）、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が 2,064 人（41.3%）であった。

Ｑ１５　初めて献血した年齢は、「１６～１７歳」が 1,728 人（34.6%）、「１８～１９歳」が 1,528 人（30.6%）で、１０代での献血が全体の６割を超えていた。

Ｑ１６　初めて献血した場所は、「献血バス」が 1,856 人（37.1%）、次いで「献血ルーム」が 1,629 人（32.6%）、「高校での集団献血」が 1,131 人（22.6%）であった。

Ｑ１７　初めての献血の種類は、「２００ｍｌ献血」が最も多く 3,117 人（62.3%）で、「４００ｍｌ献血」が 946 人（18.9%）、「成分献血」が 276 人（5.5%）であった。

Ｑ１８　過去１年間の献血回数は、

２００ｍｌ献血では、「１回」が 1,115 人（22.3%）、「２回」が 435 人（8.7%）、「３回」が 244 人（4.9%）、「４～６回」が 231 人（4,6%）で、２回以上の合計は 910 人（18.2%）であった。

４００ｍｌ献血では、「１回」が 831 人（16.6%）、「２回」が 317 人（6.3%）、「３回」が 171 人（3.4%）で、２回以上の合計は 488 人（9.8%）であった。

成分献血では、「１回」が 386 人（7.7%）、「２回」が 170 人（3.4%）、「３回」が 106 人（2.1%）、「４回以上」が 278 人（5.6%）で、２回以上の合計は 554 人（11.1%）であった。

Ｑ１９　今までの合計献血回数は、「１回」が 1,409 人（28.2%）、次いで「３～５回」が 1,363 人（27.3%）、「２回」が 813 人（16.3%）で、全体の７割以上が複数回の献血者であった。

Ｑ２０　初めて献血した際のきっかけとして１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の 1,686 人（33.7%）であった。

Ｑ２１　現在、献血する理由として１番目に挙げられたもののうち最も回答が多かったのは、「自分の血液が役に立ってほしいから」の 2,196 人（43.9%）であった。

また、献血する理由を３つまで列挙してもらい、その中で挙げられた理由について見ると、「自分の血液が役に立ってほしいから」が 3,367 人（67.3%）、次いで「輸血用の血液が不足していると聞いたから」が 2,382 人（47.6%）、「自分の血液の検査結果が自分の健康管理のためになるから」が 2,064 人（41.3%）であった。

Ｑ２２　高校での集団献血がその後の動機付けとなっているかについては、「どちらかといえば有効」が 2,274 人（45.5%）、「非常に有効」が 1,022 人（20.4%）で、有効であるとの評価が全体の７割弱を占めていた。

■ その他

Ｑ１４　献血についての要望・知りたいことについて、「献血について正しい知識、必要性を知らせてほしい」が 2,116 人（42.3%）で、次いで「献血したときの処遇品（記念品）をもっと良くしてほしい」が 2,101 人（42.0%）、「献血する場所、日時などについて十分知らせてほしい」が 1,933 人（38.7%）であった。（複数回答）

参考資料１－３

日本赤十字社提出資料

血企第１１６号
平成18年４月28日

厚生労働省
医薬食品局　血液対策課長　様

日本赤十字社
血液事業本部長

献血受入計画の策定に係る適正な分析・評価の実施について

平成18年３月30日付薬食血発第0330002号をもって依頼のあった標記の件に係る資料については、下記のとおり作成したので報告します。

記

1　平成17年度における各都道府県別の献血確保量、
確保目標量に対する達成率及び比較　　別紙１のとおり

2　達成率との比較に基づく分析

各血液センターにおける献血受入計画量１９７．８万Ｌに対する献血確保量は１９２．２万Ｌで、達成率は９７．２％となりました。このうち、血漿分画製剤用原料血漿（以下「原料血漿」という。）は、確保目標量９０万Ｌに対し、９４．８万Ｌを確保（達成率１０５％）したところであり、輸血用血液製剤については、確保目標量１０７．８万Ｌに対し、９７．４万Ｌ（同９０％）を確保しました。

輸血用血液製剤については、確保量が確保目標量を下回っていますが、これは、献血受入計画を基本としながらも、医療機関からの受注状況と血液の在庫状況を勘案し、需要に応じた採血を行った結果であり、全国的には必要量を確保しています。

献血確保量１９２．２万Ｌに対し、原料血漿及び輸血用血液製剤の合計使用量は１７９．８万Ｌ（使用量に対する確保率１０６．９％）で、１２．４万Ｌ（確保量の６．５％）が未使用量であり、安定供給には適切な血液確保量と判断しております。

これは、各血液センターが各種の献血受入の取組方策を実施し、それぞれの地域における需要に見合った血液量を確保したこと、また、各血液センターでの予期しない需要増や不足に対しては、各基幹センターを中心とする積極的な需給調

整を行った結果であります。

なお、血液事業本部及び各血液センターにおける「献血受入計画における輸血用血液製剤の安定供給及び原料血漿の安定送付のための取組み」は、別紙２のとおりです。

別紙 1－1

各都道府県別血液確保量等一覧

単位：L

No.	都道府県名	献血受入計画量	血液確保量			血液使用量				献血量−使用量	
			献血量			供給量	原料血漿送付量	計			
		平成17年度分	平成17年度分		計画達成率	自センター＋他センターへの払				未使用量	率
		A	B	B−A	B/A			C	B/C	D=B-C	D/C
1	北海道	101,023	103,275	2,252	102.2%	52,779	43,894	96,673	106.8%	6,602	6.8%
2	青森県	25,974	22,050	△ 3,924	84.9%	9,548	10,480	20,028	110.1%	2,022	10.1%
3	岩手県	21,284	19,319	△ 1,965	90.8%	8,590	10,638	19,228	100.5%	91	0.5%
4	宮城県	37,382	36,093	△ 1,289	96.6%	15,982	17,258	33,240	108.6%	2,853	8.6%
5	秋田県	19,615	18,557	△ 1,058	94.6%	8,525	8,819	17,344	107.0%	1,213	7.0%
6	山形県	16,779	15,635	△ 1,144	93.2%	5,775	8,682	14,457	108.1%	1,178	8.1%
7	福島県	30,583	31,942	1,359	104.4%	14,502	15,276	29,778	107.3%	2,164	7.3%
8	茨城県	39,700	35,662	△ 4,038	89.8%	15,457	18,813	34,270	104.1%	1,392	4.1%
9	栃木県	28,654	26,714	△ 1,940	93.2%	11,367	13,911	25,278	105.7%	1,436	5.7%
10	群馬県	31,714	31,561	△ 153	99.5%	13,809	15,379	29,188	108.1%	2,373	8.1%
11	埼玉県	88,216	88,079	△ 137	99.8%	35,194	47,146	82,340	107.0%	5,739	7.0%
12	千葉県	84,828	77,895	△ 6,933	91.8%	36,703	38,674	75,377	103.3%	2,518	3.3%
13	東京都	216,585	219,758	3,173	101.5%	106,014	104,890	210,904	104.2%	8,854	4.2%
14	神奈川県	120,688	110,969	△ 9,719	91.9%	49,056	57,389	106,445	104.3%	4,524	4.3%
15	新潟県	35,267	37,019	1,752	105.0%	15,457	18,432	33,889	109.2%	3,130	9.2%
16	富山県	16,620	15,222	△ 1,398	91.6%	5,876	8,223	14,099	108.0%	1,123	8.0%
17	石川県	23,067	21,192	△ 1,875	91.9%	8,033	11,910	19,943	106.3%	1,249	6.3%
18	福井県	13,840	14,453	613	104.4%	6,677	6,765	13,442	107.5%	1,011	7.5%
19	山梨県	12,324	13,555	1,231	110.0%	6,097	6,705	12,802	105.9%	753	5.9%
20	長野県	33,480	33,101	△ 379	98.9%	12,142	18,382	30,524	108.4%	2,577	8.4%
21	岐阜県	31,400	28,501	△ 2,899	90.8%	11,656	15,356	27,012	105.5%	1,489	5.5%
22	静岡県	53,291	51,121	△ 2,170	95.9%	20,757	27,407	48,164	106.1%	2,957	6.1%
23	愛知県	105,601	99,228	△ 6,373	94.0%	42,600	50,925	93,525	106.1%	5,703	6.1%
24	三重県	23,304	24,604	1,300	105.6%	8,654	15,384	24,038	102.4%	566	2.4%
25	滋賀県	19,978	17,264	△ 2,714	86.4%	7,746	8,975	16,721	103.2%	543	3.2%
26	京都府	45,890	41,150	△ 4,740	89.7%	20,344	19,564	39,908	103.1%	1,242	3.1%
27	大阪府	144,537	144,511	△ 26	100.0%	66,730	66,657	133,387	108.3%	11,124	8.3%
28	兵庫県	76,198	75,430	△ 768	99.0%	31,537	38,657	70,194	107.5%	5,236	7.5%
29	奈良県	22,200	20,077	△ 2,123	90.4%	9,179	9,096	18,275	109.9%	1,802	9.9%
30	和歌山県	17,761	16,809	△ 952	94.6%	7,602	7,185	14,787	113.7%	2,022	13.7%
31	鳥取県	11,360	11,132	△ 228	98.0%	4,206	5,688	9,894	112.5%	1,238	12.5%
32	島根県	13,641	12,023	△ 1,618	88.1%	4,801	5,620	10,421	115.4%	1,602	15.4%
33	岡山県	34,000	32,746	△ 1,254	96.3%	15,362	15,410	30,772	106.4%	1,974	6.4%
34	広島県	51,914	51,274	△ 640	98.8%	20,636	25,933	46,569	110.1%	4,705	10.1%
35	山口県	24,275	24,393	118	100.5%	11,198	10,859	22,057	110.6%	2,336	10.6%
36	徳島県	14,441	13,898	△ 543	96.2%	6,168	6,450	12,618	110.1%	1,280	10.1%
37	香川県	17,385	16,040	△ 1,345	92.3%	7,957	7,013	14,970	107.1%	1,070	7.1%
38	愛媛県	25,472	24,560	△ 912	96.4%	10,680	10,586	21,266	115.5%	3,294	15.5%
39	高知県	15,042	13,718	△ 1,324	91.2%	5,829	6,960	12,789	107.3%	929	7.3%
40	福岡県	74,531	73,658	△ 873	98.8%	37,133	42,829	79,962	92.1%	△ 6,304	−7.9%
41	佐賀県	11,882	12,799	917	107.7%	0	0	0	−	12,799	−
42	長崎県	24,035	24,343	308	101.3%	9,560	13,363	22,923	106.2%	1,420	6.2%
43	熊本県	33,338	33,637	299	100.9%	13,721	16,190	29,911	112.5%	3,726	12.5%
44	大分県	19,499	18,716	△ 783	96.0%	7,560	8,970	16,530	113.2%	2,186	13.2%
45	宮崎県	19,540	18,822	△ 718	96.3%	7,587	8,484	16,071	117.1%	2,751	17.1%
46	鹿児島県	28,512	27,173	△ 1,339	95.3%	11,898	12,455	24,353	111.6%	2,820	11.6%
47	沖縄県	21,564	22,765	1,201	105.6%	10,885	10,558	21,443	106.2%	1,322	6.2%
計		1,978,214	1,922,443	△ 55,771	97.2%	849,569	948,240	1,797,809	106.9%	124,634	6.9%

別紙 1－2

各都道府県別血液確保量等一覧（献血受入計画規模別）

単位：L

No.	都道府県名	献血受入計画量	血液確保量			血液使用量				献血量−使用量	
			献血量			供給量	原料血漿送付量	計			
		平成17年度分	平成17年度分		計画達成率	自センター＋他センターへの払				未使用量	率
		A	B	B−A	B/A			C	B/C	D=B−C	D/C
1	東京都	216,585	219,758	3,173	101.5%	106,014	104,890	210,904	104.2%	8,854	4.2%
2	大阪府	144,537	144,511	△ 26	100.0%	66,730	66,657	133,387	108.3%	11,124	8.3%
3	神奈川県	120,688	110,969	△ 9,719	91.9%	49,056	57,389	106,445	104.3%	4,524	4.3%
4	愛知県	105,601	99,228	△ 6,373	94.0%	42,600	50,925	93,525	106.1%	5,703	6.1%
5	北海道	101,023	103,275	2,252	102.2%	52,779	43,894	96,673	106.8%	6,602	6.8%
6	埼玉県	88,216	88,079	△ 137	99.8%	35,194	47,146	82,340	107.0%	5,739	7.0%
7	千葉県	84,828	77,895	△ 6,933	91.8%	36,703	38,674	75,377	103.3%	2,518	3.3%
8	兵庫県	76,198	75,430	△ 768	99.0%	31,537	38,657	70,194	107.5%	5,236	7.5%
9	福岡県	74,531	73,658	△ 873	98.8%	37,133	42,829	79,962	92.1%	△ 6,304	−7.9%
10	佐賀県	11,882	12,799	917	107.7%	0	0	0	−	12,799	−
11	静岡県	53,291	51,121	△ 2,170	95.9%	20,757	27,407	48,164	106.1%	2,957	6.1%
12	広島県	51,914	51,274	△ 640	98.8%	20,636	25,933	46,569	110.1%	4,705	10.1%
13	京都府	45,890	41,150	△ 4,740	89.7%	20,344	19,564	39,908	103.1%	1,242	3.1%
14	茨城県	39,700	35,662	△ 4,038	89.8%	15,457	18,813	34,270	104.1%	1,392	4.1%
15	宮城県	37,382	36,093	△ 1,289	96.6%	15,982	17,258	33,240	108.6%	2,853	8.6%
16	新潟県	35,267	37,019	1,752	105.0%	15,457	18,432	33,889	109.2%	3,130	9.2%
17	岡山県	34,000	32,746	△ 1,254	96.3%	15,362	15,410	30,772	106.4%	1,974	6.4%
18	長野県	33,480	33,101	△ 379	98.9%	12,142	18,382	30,524	108.4%	2,577	8.4%
19	熊本県	33,338	33,637	299	100.9%	13,721	16,190	29,911	112.5%	3,726	12.5%
20	群馬県	31,714	31,561	△ 153	99.5%	13,809	15,379	29,188	108.1%	2,373	8.1%
21	岐阜県	31,400	28,501	△ 2,899	90.8%	11,656	15,356	27,012	105.5%	1,489	5.5%
22	福島県	30,583	31,942	1,359	104.4%	14,502	15,276	29,778	107.3%	2,164	7.3%
23	栃木県	28,654	26,714	△ 1,940	93.2%	11,367	13,911	25,278	105.7%	1,436	5.7%
24	鹿児島県	28,512	27,173	△ 1,339	95.3%	11,898	12,455	24,353	111.6%	2,820	11.6%
25	青森県	25,974	22,050	△ 3,924	84.9%	9,548	10,480	20,028	110.1%	2,022	10.1%
26	愛媛県	25,472	24,560	△ 912	96.4%	10,680	10,586	21,266	115.5%	3,294	15.5%
27	山口県	24,275	24,393	118	100.5%	11,198	10,859	22,057	110.6%	2,336	10.6%
28	長崎県	24,035	24,343	308	101.3%	9,560	13,363	22,923	106.2%	1,420	6.2%
29	三重県	23,304	24,604	1,300	105.6%	8,654	15,384	24,038	102.4%	566	2.4%
30	石川県	23,067	21,192	△ 1,875	91.9%	8,033	11,910	19,943	106.3%	1,249	6.3%
31	奈良県	22,200	20,077	△ 2,123	90.4%	9,179	9,096	18,275	109.9%	1,802	9.9%
32	沖縄県	21,564	22,765	1,201	105.6%	10,885	10,558	21,443	106.2%	1,322	6.2%
33	岩手県	21,284	19,319	△ 1,965	90.8%	8,590	10,638	19,228	100.5%	91	0.5%
34	滋賀県	19,978	17,264	△ 2,714	86.4%	7,746	8,975	16,721	103.2%	543	3.2%
35	秋田県	19,615	18,557	△ 1,058	94.6%	8,525	8,819	17,344	107.0%	1,213	7.0%
36	宮崎県	19,540	18,822	△ 718	96.3%	7,587	8,484	16,071	117.1%	2,751	17.1%
37	大分県	19,499	18,716	△ 783	96.0%	7,560	8,970	16,530	113.2%	2,186	13.2%
38	和歌山県	17,761	16,809	△ 952	94.6%	7,602	7,185	14,787	113.7%	2,022	13.7%
39	香川県	17,385	16,040	△ 1,345	92.3%	7,957	7,013	14,970	107.1%	1,070	7.1%
40	山形県	16,779	15,635	△ 1,144	93.2%	5,775	8,682	14,457	108.1%	1,178	8.1%
41	富山県	16,620	15,222	△ 1,398	91.6%	5,876	8,223	14,099	108.0%	1,123	8.0%
42	高知県	15,042	13,718	△ 1,324	91.2%	5,829	6,960	12,789	107.3%	929	7.3%
43	徳島県	14,441	13,898	△ 543	96.2%	6,168	6,450	12,618	110.1%	1,280	10.1%
44	福井県	13,840	14,453	613	104.4%	6,677	6,765	13,442	107.5%	1,011	7.5%
45	島根県	13,641	12,023	△ 1,618	88.1%	4,801	5,620	10,421	115.4%	1,602	15.4%
46	山梨県	12,324	13,555	1,231	110.0%	6,097	6,705	12,802	105.9%	753	5.9%
47	鳥取県	11,360	11,132	△ 228	98.0%	4,206	5,688	9,894	112.5%	1,238	12.5%
計		1,978,214	1,922,443	△ 55,771	97.2%	849,569	948,240	1,797,809	106.9%	124,634	6.9%

別紙２

献血受入計画における輸血用血液製剤の安定供給及び原料血漿の安定送付のための取組み

１　血液製剤の安定供給等に係る日常の取組み

輸血用血液製剤の在庫の過不足の早期把握、安定的な供給を図るための必要な措置の検討、実施及び需給計画の検証を行うため、血液事業本部及び血液センターに以下に記載する委員会等を設置し対応を行っている。

（１）血液事業本部の取組み

血液事業経営会議の指示に基づき、献血推進及び血液製剤の供給等について審議する血液事業推進委員会を設置し、特に血液の安定供給に資するため、血液事業推進委員会の下に安定供給促進小委員会を設置している。当委員会は毎週金曜日（必要により随時）に開催し、全国の輸血用血液製剤の需給状況及び原料血漿の確保状況を把握し、輸血用血液製剤の安定供給を実現・維持するための対応策の検討及び各血液センターへの対応策の指示・監視・指導を行い、その進捗管理を行い、必要があれば、基幹センター及び各血液センター幹部職員を本部に呼び指示・指導を行っている。

また、危機管理対応として、注意報水準・警報水準に陥らないように、同本部献血推進課は常時全国の需給状況を確認している。

（２）各血液センターの取組み

各血液センターにおいては、需給計画委員会を毎週（必要により随時）開催し、採血・製造・供給・在庫実績に基づく在庫シミュレーションを行い、赤血球製剤・血漿製剤・血小板製剤の需要予測及び採血計画に基づく検証を行い、血液の過不足を早期に把握し、翌月・翌々月の需給計画を策定する。基幹センターは、上記の血液センターとしての役割に加え、管内の需給状況（採血・製造・供給状況等）の把握、需給計画の検証及び指導を行うとともに必要に応じて血液の需給調整を行っている。

（３）在庫量の情報管理と危機管理対応

①　血液事業本部は、休日を除く毎日、午前６時現在の全国各血液センターの赤血球製剤の在庫を確認し、注意報水準・警報水準に陥らないよう常に全国の需給状況を確認するとともに、赤血球製剤の在庫状況を厚生労働省あて報告している。

また、各センターからは各都道府県及び各都道府県支部あてに同様に情報提供している。

② 注意報水準あるいは警報水準に陥ったセンターについては、「危機管理水準の情報報告書」により危機管理水準の現況、それに至るまでに講じた方策等を、基幹センターを通じて血液事業本部あて提出させ、それを受けて血液事業本部は「危機管理水準の対応指示書」により具体的な対策等を指示している。

③ さらに、需要予測によって血液不足が見込まれる血液センターについては、所長等を血液事業本部へ呼び、今後の採血計画の見直しや増班体制をとるなどの具体的な対策を講じるよう指示した。

④ また、平成17年４月に本社及び各血液センターに献血推進本部を設置し、献血の大幅な減少等が懸念される場合に、迅速に効果的な対応がとれる体制を整備した。

２ 冬季献血者確保対策

平成17年８月及び12月に安定供給小委員会において、冬季対策及び３月から４月にかけての確保対策について、昨年度の実績検証を行った上で平成17年度の計画策定について検討を行った。

３ 基幹センター献血推進・供給担当課長会議の開催

平成17年９月、10月及び平成18年２月に、安定供給小委員会にあわせて開催し、赤血球製剤の在庫が全国的に逼迫する冬季及び３月から４月にかけての輸血用血液製剤確保対策について在庫予測シミュレーション等を使用し、進捗状況確認、検証及び策定を行った。また、全国各血液センターあてに対し、昨年実績等により検証を行い確実な計画を策定するよう指示した。

４ 全国赤十字血液センター需給管理担当者研修会の開催

全国血液センター需給管理担当者を対象に血液事業における需給管理、冬季対策の立案と進捗管理及び需給管理業務にかかるシミュレーションの活用についての研修を行った。